



報道関係各位

GE ヘルスケア・ジャパン
循環器用超音波診断装置“Vivid”シリーズに
当社製品初の有機 EL ディスプレイを搭載した「Vivid E95/90」、
コンパクト化に成功した「Vivid S70」を同時投入
 ～“ローカルビッグデータ”を使用したリアルタイムの画像処理を実現
 さらなる高画質画像表示で診断精度も向上～

医療課題の解決に取り組むヘルスケアカンパニー、GE ヘルスケア・ジャパン株式会社(本社:東京都日野市、代表取締役社長兼 CEO:川上潤)は、循環器用超音波診断装置“Vivid”シリーズの新モデル 3 機種「Vivid E95/90(ヴィヴィッド・イーナインティファイブ/ナインティ)」と「Vivid S70(ヴィヴィッド・エスセブンティ)」を、7月7日(火)に同時発売します。

人口の高齢化に伴い国内の循環器系疾患は増加しており、心疾患(心臓病)、脳血管疾患(脳血管障害)はそれぞれ、国内死因の2位と4位に位置しています*1。循環器系疾患の診断・治療の技術は向上していますが、患者への迅速な診断・治療及びフォローアップを含むケアサイクルの効率化が求められている状況は変わりません。このような中で、検査精度の向上と診断の効率化に貢献する超音波診断機器は、循環器系疾患領域でのケアサイクルの向上に役立つと注目されています。

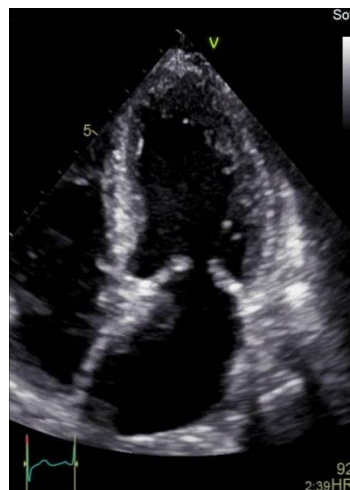
「Vivid E95/90」および「Vivid S70」は、循環器系疾患診断のニーズに対応するソリューションとして開発され、高画質表示と画像処理のリアルタイム性を両立した新製品です。従来、超音波診断装置の検査データの送受信はハードウェアを介して行われ、固定の画像処理プロセスに制御されていたため、高画質表示とフレームレート(画面表示速度)の両立は難しいとされてきました。

このたび発売する Vivid シリーズの 3 機種は、画像処理プロセスを全てソフトウェアで行うことで、超音波検査の被験者から得られる、1秒当たり DVD1 枚以上もの量となる全データ“Local Big Data(ローカルビッグデータ)”を受信し、リアルタイムで膨大な超音波データの情報処理を可能にしました。高画質かつ情報量の多い検査画像の提供は、超音波検査における描出不良例の減少につながり、結果として検査時間の短縮および再検査の減少にもつながることから、超音波診断にかかわる医師・技師の負担軽減および患者負担の軽減が期待されています。

*1: 平成 25 年人口動態統計年報より、http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei13/dl/11_h7.pdf



従来の超音波装置による
診断画像



Vivid E95/90 による
高画質診断画像

■「Vivid E95/90」「Vivid S70」製品特長

・超音波送受信のソフトウェア化による高画質・高フレームレートの両立

従来のハードウェアによる超音波送受信を全てソフトウェアで行うことにより、より多くの送受信情報（ローカルビッグデータ）を高速演算処理ユニットで同時並列多重プロセスから画像化することに成功。高画質と高フレームレート（リアルタイム性）の両立を実現しました。

・3D/4Dの高画質・高フレームレート実現

3D/4Dの検査画像の高画質と高フレームレートの実現により、SHD（Structural Heart Disease）における診断治療支援をさらに高い次元で行うことを可能とします。

・タブレット型タッチパネル上で過去と現在の検査データの比較が容易に

タブレット型タッチパネルがスムーズな操作性を実現、より直感的な操作が可能に。過去検査のレビュー画像の表示で検査時の画像比較が容易になり、診断精度を向上させます。

・有機 EL ディスプレイを当社製品初搭載（Vivid E95/90のみ）

高画質画像をより鮮明に表示する有機 EL ディスプレイを当社製品に初めて搭載。従来の液晶が苦手であった「黒」の表現を大きく改善して、画像診断をサポートします。

・高画質画像をより鮮明に表示（Vivid E95/90のみ）

全深度、全視野においてピクセルレベルで焦点の合った、鮮明度の高い画像の提供を可能とする「ダイナミックピクセルフォーカス機能」と「Adaptive Contrast Enhance 機能」を搭載。

・コンパクト化（Vivid S70のみ）

従来の Vivid シリーズ最上位モデル「Vivid E9 with XDclear」で使用されていた高機能送受信ハードウェアのソフトウェア化により、装置のコンパクト化に成功。設置スペースに制限のある手術室やインターベンション室での診断・治療をサポートします。



Vivid E95/90



Vivid S70

■製品概要

製品名：汎用超音波画像診断装置 Vivid E95

発売日：2015年7月7日

初年度国内販売目標：400台

医療機器認証番号：227ABBZX00350000号

※Vivid E90は汎用超音波診断装置 Vivid E95の類型です

製品名：汎用超音波画像診断装置 Vivid S70

発売日：2015年7月7日

初年度国内販売目標：200台

医療機器認証番号：226ABBZX00155000

GE ヘルスケア・ジャパンの超音波診断装置

当社の超音波診断装置は、現在、汎用の「LOGIQ (ロジック)」、循環器用の「Vivid (ヴィヴィッド)」、産婦人科用の「Voluson (ボルソン)」、各診療科の特定ニーズに対応する「Venue (ヴェニユ)」、ならびに2010年10月に発売したポケットサイズの「Vscan (ヴィースキャン)」の5ブランド体制で、エントリーモデルからプレミアムハイエンド機まで、医療機器のニーズにきめ細やかに応える製品を世に送り出しています。また、Venue シリーズや Vscan などバッテリー駆動の可能性と簡便性、高い機能性を誇る装置を通じて、在宅・災害医療時や、麻酔科や整形外科、リウマチ科などこれまで超音波診断装置の使用頻度が低かった分野における新たな利用機会の創出を積極的に進めています。

これらの取り組みを通じて、全てのブランドにおいて幅広い製品の投与ならびにサービスの充実を進めることで、優れた医療ソリューションの提供を図り、「人にやさしい、社会にやさしい」医療の実現に貢献することを目指します。

GE ヘルスケア・ジャパンについて

GE ヘルスケア・ジャパン株式会社は、世界が直面する困難な課題解決に取り組む GE ヘルスケアの中核拠点の1つとして、1982年に設立されました。国内に開発、製造から販売、サービス部門までを持ち、日本のお客様のニーズにお応えする、先端的な医療技術ならびに医療・研究機関向けの各種サービスをお届けしています。CTやMRI、超音波診断装置などの医療用画像診断から、体内診断薬、細胞解析装置などのライフサイエンス(生命科学)まで幅広い分野にわたる専門性を駆使しながら、GEの世界戦略「ヘルシーマジネーション」で掲げる「医療コストの削減」「医療アクセスの拡大」「医療の質の向上」の実現を目指します。2015年4月1日現在の社員数は2,000名、国内に本社および54カ所の事業拠点。

ホームページアドレスは www.gehealthcare.co.jp (ライフサイエンス統括本部: www.gelifesciences.co.jp)。

<お問い合わせ先>

GE ヘルスケア・ジャパン (株) コミュニケーション本部 ブランチャード/松井
Tel: 0120-202-021